

③ 特別支援学校の教育課程 —特別支援教育の充実を図るために—

発達障がいを含む障がいのある子どもが在籍している可能性があることを前提として、**特別支援学校を参考に教育課程を工夫し、子どもの教育ニーズに応じた指導・支援につなげることが大切です。**

教育課程

- ◇視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、病弱のある子どもに対する教育課程
 - ・幼稚園各領域や小学校等の各教科等の改訂内容を踏まえる
 - ・小学校には外国語活動（3・4年）、外国語（5・6年）が導入されることを考慮する
- ◇知的障がいのある子どもに対する教育課程
 - ・小学校等の各教科等の目標な内容の連続性・関連性を配慮
 - ・小学部、中学部、高等部間や段階間で系統のある内容を設定
 - ・小学部に外国語活動の内容を加えることができる
 - ・中学部では新たに第二段階を設ける
- ◇重複障がいの子ども等に対する教育課程
 - ・教科等の内容の連続性の視点を大切に
 - ・取り扱わなかった内容を学年進行後にどう履修するか配慮

指導方法の改善・充実

- ◇子どもたちの障がいの状態や特性等を踏まえた指導
- ◇各教科等（各教科・領域）を合わせて指導を行うことが効果的である場合、「**合わせた指導**」を実施する。「**合わせた指導**」では、それぞれの教科等の指導の目標や内容を明確にする
- ◇障がいの状態等に応じた効果的な学習指導やコミュニケーションの手段としてICTの活用を充実させる

自立活動の指導

- ◇自己理解を深め、自己肯定感を高める
- ◇得意不得意等に係る意思を表明する力を育む
- ◇主体的に学ぶ意欲を伸長する
- ◇子どもの実態把握し、それを踏まえての目標・内容の設定
- ◇各教科等と自立活動における手順の違いや両者の関連を配慮
- ◇多様な評価方法を工夫、特に自己評価する方法を工夫
 - ・自立活動では、子ども自身が「できた」という達成感が重要

自立活動の指導は、一人一人の実態把握に基づいて指導目標や内容を設定し、各教科等と関連付けながら実施します。教育課程の工夫によって、全ての学びの場で自立活動の指導を行うことができます。



キャリア教育の充実

- ◇幼稚部から高等部卒業まで、一貫性のある指導や支援により**キャリア発達**を促す
 - ※「**キャリア発達**」とは、学校や社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程のこと

各学校で考えてみましょう

- ▶ 子ども一人一人の学び方の違いを知り、教育課程の編成や各教科等における指導・支援の在り方を工夫しましょう。